

第2学年 社会科 学習構想案

菊池市立七城中学校 西田 拡人

1 単元構想

単元名	第4章「地域の在り方」(東京書籍 P.270～281)		
単元の目標	○地域の在り方を、地域の結び付きや地域の変容、持続可能性などに着目し、そこで見られる地理的な課題について多面的・多角的に考察、構想、表現する。 ○七城町の米作りにおける知恵・工夫や努力など、地域の特徴について理解を深めるとともに、持続可能な社会づくりを視野に、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付ける。		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①地域の実態や問題解決のための取り組みを理解している。 ②地域的な課題の解決に向けて考察、構想したことを適切に説明、議論しまとめる手法について理解している。 ③七城町の米作りにおける知恵・工夫や努力など、地域の特徴について理解している。	①地域の在り方を、地域の結び付きや地域の変容、持続可能性などに着目し、そこで見られる地理的な課題について多面的・多角的に考察、構想、表現している。 ②七城町の米作りと地域的な課題と関連させ、将来の米作りや地域づくりについて考察している。	①七城の米作りについて関心を高め、地域の産業を受け継ぐ人々の知恵や工夫、努力について主体的に追究しようとしている。 ②七城の米作りに関連した地域の在り方について、持続可能な地域づくりを視野に、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
単元終了時の生徒の姿 (単元のゴールの姿・期待される姿)			
七城町の米作りを通して、地理的な見方・考え方(「位置や空間的な広がりとの関わり・環境条件や他地域との結びつき、人間の営みとの関連」)を働かせ、地域社会の特色や地域的な課題、そして地域で暮らす自分たちの立ち位置を認識し、それを踏まえて未来社会を予見し構想する生徒。 【ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度】 <構成概念「II相互性」・「VI責任性」> ①何らかの事象に出会った時に、自らの体験や学習を通して身に付けた価値観に基づき課題を見出ししていく力。 ②ひと・もの・こと・社会・自然のつながり・関わり・広がり(システム)を理解し、それらを多面的・多角的・総合的に考える力。 ③ひと・もの・こと・社会・自然などと自分とのつながり、関わりに関心をもち、それらを尊重し大切にしようとする態度。			
単元を通した学習課題 (単元の中心的な学習課題)		本単元で働かせる見方・考え方	
七城米が私たちの自慢であり続けるために私たちができることは何か? ~('仮称:お米シンポジウム'の開催に向けて)		菊池市(七城町)の人口減少と高齢化による産業・経済の変化、また、それによる地域的な課題及び解決について、多面的・多角的に考察、選択、判断する。	
指導計画と評価計画 (6時間取り扱い 本時2/6)			
1・2 (本時) 単元の導入 (探究課題を立てる)			
○GT (JA七城中央支所営農課)の講話(「七城町の米作り」)から、七城町の米作りを特色づける事象を見出し、探究課題を立てる。 ○小学校での既習事項を踏まえ、課題の追究・解決への計画・見通しを立て、グループで追究・解決のための情報収集や考察をする。 【具体的評価規準】 (態度)年表・地図・写真・グラフ・図などの資料から、七城町の米づくりのあらましや変化に対する興味・関心を高め、課題の追究・解決への計画・見通しを立てようとしている。			
3 追究① (グループでの追究・解決)		4 追究② (グループや学級全体での対話) GT	
○課題の追究・解決のために、情報を集め、整理する。 【具体的評価規準】 (知識・技能) 米作りを取り巻く社会・自然環境の変化に着目して、資料等から地域的な課題を読み取っている		○地域的な課題について学級全体で相互評価する。 【具体的評価規準】 (思考・判断・表現) 地域的な課題を多面的・多角的に考察している。 (●振り返り)	
5 追究③ (グループでの追究・解決) 発表準備		6 まとめ ('お米シンポジウム')・●振り返り	
○米作りを取り巻く課題とその解決に向けて考察、構想したことを整理する。 【具体的評価規準】 (思考・判断・表現) 米作りを取り巻く地域の在り方について、自分の在り方を含め考察している。		○七城町の米作りを取り巻く地域の在り方について持続的可能性を視点に構想し、表現する。 【具体的評価規準】 (態度) 七城町の米作りに興味・関心を高め、より良い地域社会づくりに関わろうとする態度を示している。	

2 単元(題材)における指導計画と評価計画及び系統

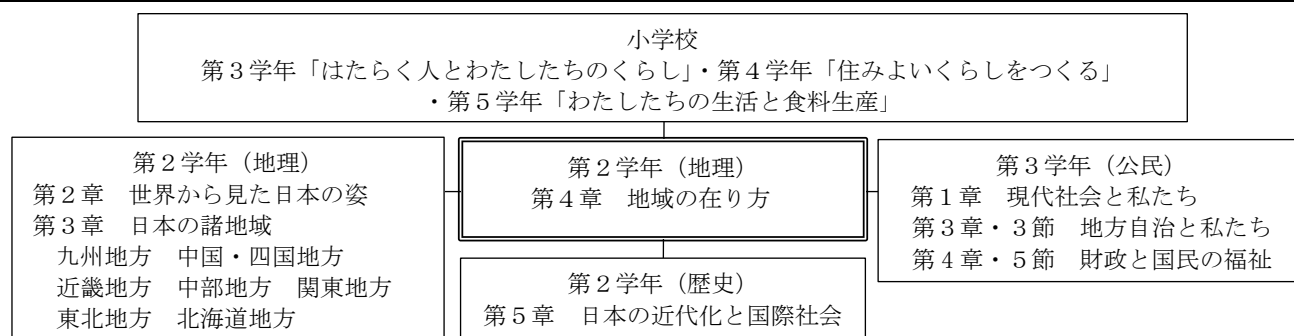
学習指導要領における該当箇所

中学校学習指導要領社会科地理的分野「C（４）ア（ア）地域の実態や課題解決のための取組を理解すること。（イ）地域的な課題の解決に向けて考察、構想したことを適切に説明、論議しまとめる手法について理解すること。イ（ア）地域の在り方を、地域の結び付きや地域の変容、持続可能性に着目し、そこで見られる地理的な課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現すること。」を受けて、本単元は設定されている。

教材・題材等の価値

本単元の設定により、人口減少と高齢化地域の主産業である農業、とりわけブランド米「七城米」の生産に関わる人々の知恵・工夫、努力を理解することができる。菊池市においては、人口減少と高齢化対策は重要課題であり、行政も市民も地域づくりの取組を積極的に進めている。持続可能な社会の実現を視野に、自分が生活する地域で見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して地域社会づくりに参画する能力を養うことのできる単元である。また、将来の地域の在り方についての構想を、言葉や図などで表わすなどの活動により、自らの考えを分かりやすく他者に伝える表現力を育成することができる。

本単元における系統



生徒の実態（単元の目標につながる学びの実態）

■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況（単位：人）

調査内容	よく	まあまあ	あまり	ない
①写真・絵図・グラフ・表などの資料から必要な情報を読み取る	3	15	3	0
②課題解決のために教科書や図書等を使って情報を集める	3	16	2	0
③自分の考えや意見を自分の言葉で相手に伝える	4	12	5	0
④ジャストジャンプの「シナリオカード」を使う	14	6	1	0

■本単元を学習に関する意識の状況（単位：人）

調査内容	よく	まあまあ	あまり	ない
①七城米ブランド米として人気がある理由	3	1	6	5
②七城町の米作りへの興味・関心	10	8	3	0
③米作りの課題	・農家の減少2 ・農家の高齢化4 ・後継ぎ不足1 ・米食離れ4 ・知らない10			
④社会科の授業で好きな活動	・調べ学習8 ・タブレットを使う7 ・班で意見を出し合う3 ・調べたことの発表3			

■考察

4月に実施した菊池市学力・学習状況調査の社会科の結果を見ると、全国・県平均を上回り概ね良好な状況ではあるが、正答率40%未満の生徒が3名いる。観点別では、「思考・判断・表現」力を高めることに課題がある。i-checkからは、「授業や日常生活で不思議や疑問を持つ」「自分で計画を立てて学習する」について肯定的な回答の割合が低いことが分かった。生徒たちは、課題解決のための「調べる」学習に対して意欲的に取り組むことができる。一方、調べたことを文章でまとめたり、説明したりすることには苦手意識を持っている。

アンケートによると、「七城町の米作り」に関する知識や、興味・関心を持つ生徒は高く、自分たちの「自慢」「誇り」と感じている。一方、農業（米づくり）の実態や抱える課題についての理解は浅い。小学校では地域の方々との連携・協働活動は行われ、地域の歴史・文化・産業や持続可能な社会づくりに対する学習意欲がうかがえる。

(1) 本学習で働かせるE S Dの視点（見方・考え方）

- ・「Ⅱ相互性」：七城町の米作りは、明治以来、七城町の人々のより豊かな暮らしを求める思いや知恵・工夫、努力などとともに、多種多様な社会的現象（自然・文化・社会・経済）が互いに働き掛け合っている。
- ・「Ⅵ責任性」：安心・安全で、より豊かな暮らしが後世に続くよう、七城町の主産業である農業の発展のために、人々が協力し合い、試行錯誤が繰り返されてきた。

(2) 本学習を通して育てたいE S Dの能力・態度

- ・「多面的」：七城町における米作りを、生産者と消費者の関係、菊池市が抱える人口減少・高齢化、開発と環境問題、世界情勢と日本政府の農業政策などの面から捉え、そこに見られる課題や菊池市（地域）の施策など、より良い社会の実現のための取組を理解する。
- ・「関連」：ブランド米である七城米の生産には、自然環境、生産者、農業を支える国・市・地縁団体世界情勢、日本政府の農業政策など様々な要素がつながり、関わり合っていることを考察する。
- ・「参加」：自分たちの「自慢」、「誇り」である七城町の米づくりを通して、社会（菊池市・七城町）の一員であることの自覚を高め、人口減少と高齢化の課題を抱える菊池市の「癒しの里菊池」づくりに参画していく。

(3) 本学習で変容を促すE S Dの価値観

- ・「世代間の公正」：農業を主産業とする七城の人々の、より豊かな暮らしを求める知恵・工夫、努力を未来にもつなげたい。
- ・「自然環境、生態系の保全重視する」：七城町の豊かな自然は、何もせず放っておいては持続しない。自然環境を守るために、身のまわりのできることを探し、行動していく。
- ・「幸福感を大切にする」：いつの時代も、だれもが幸せに生きたいという願いを持っている。その願いは、お互いに尊重していきたい。

(4) 達成が期待されるSDGs

- ・「8 働きがいも経済成長も」：菊池市・七城町の「強み」を活かした経済発展をめざす。
- ・「11 住み続けられるまちづくりを」：菊池市・七城町の課題を把握し、人に学び、人とつながり、地域社会づくりに参画していく。

5 指導に当たっての留意点

【研究テーマ】 自ら学び、考える力を育む授業の創造

（仮説1）興味・関心・疑問が生まれるような課題設定の工夫をすれば、主体的に課題解決に取り組むようになるだろう。

（仮説2）自他を尊重するコミュニケーション能力を育むことができれば、授業における学び合いが深まるだろう。

学習活動においては、写真・グラフ・図・絵などの資料で生徒の興味・関心を高めるとともに、それらの資料から、気づきや疑問を自由に出し合わせ、ペア・グループでの教え合い、考え合い、伝え合いなどの場面をつくる。自分の考えだけでなく、学級の仲間の考えと関わり、表現方法を学び合い、学習意欲を高めて認識を深めるよう工夫したい。また、学習意欲はあるが課題把握に時間がかかる生徒、書くことや作業を面倒だと考える生徒、課題や作業の目的は理解しているが取りかかりが遅い生徒には、早い段階で机間指導を行い、ヒントカードを見せたり、学習活動を細かく分けたりするなどの支援を行い、「誰一人取り残さない」授業をめざす。

グローバル化、少子高齢化、情報化の進展、絶え間ない技術革新等、とりわけ新型コロナウイルス感染拡大により、社会構造や雇用環境は大きく、そして急速に変化しており、予測が困難な時代となっている。このような時代の中で、様々な情報や出来事を受け止め、主体的に判断しながら、自分自身を社会の中でどのように位置付け、社会をどう描くかを考える力、そして他者と一緒に生き、諸課題を解決していく力が必要とされる。したがって、本単元では小学校での学習を基礎に、次の2点を大事にして授業を展開する。①七城ブランド米の生産者の方々の知恵・工夫・努力、思いや願いを理解する。②七城米の生産をとりまく自然・社会環境に関わる課題を見つめ、未来に向けた社会を構想し、課題解決しようとする力を育てる。また、他教科で身に付けた知識やスキルを使う場面も

設定するなど、他教科との連携を通して学びをより深めたい。

【仮説1について】

菊池市農政課やJA七城中央支所営農課の方々、米作り農家の方との対話、そして小学校での学びを基に、ブラ七城米の生産に関わる知恵・工夫と努力について関心を高める。同時に自然・社会環境の変化による米作りの課題に目を向け、持続可能な米作りは、農家だけの課題ではないことに気づくことができる。

【人権教育の視点及びESD・SDGsとの関連について】

「新型コロナウイルス感染拡大による未曾有の事態のなか、自分と他者、学校、学習、社会、経済、国家、家族、正義、常識、日常、人の心の形、命……あらゆるものが変化を余儀なくされた。その中で、部落問題をはじめ、あらゆる人権問題の事象や差別構造のしくみと重なる社会の矛盾や不合理が浮き彫りとなった。生徒や親たちの暮らしにもきつと大きな変化がある。一体何が起きたのか、どう変化したのか。具体的な事実を丁寧に拾い上げて整理し、予測不可能な将来に備えるのは、大げさな言い方だが、教師の使命ではないかと思う。欲張って言うと、この「未曾有の事態」の陰（見えないところ・マスコミが取り上げないこと）で、置き去りにされていること、あるいは違う何かが大きく変化していることがあるはずである。これらの変化にも生徒たちと一緒に目を光らせ、生徒たちともに人権感覚を養っていく。社会科の「見方・考え方」の大切な一つである。

教師自身が多様な解釈、多様な見方を持ち、生徒の暮らしの中から興味・関心や疑問を引き出す。そして、追究を通して、生徒が未来社会を予見し構想するような学習内容、教材、授業展開を工夫したい。



(1) 目標 七城町の米作りの現状や課題に対する興味・関心を高め、探究課題と課題追究の見通しを立てることができる。(主体的に学習に取り組む態度)

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等、◎ICT)
導入	12分	<p>1 本時の学習内容・授業の流れを確認する。</p> <p>①前時(GTの話)を振り返る。 ②単元の学習で扱う基本用語を確認する。 ◇小学校でも学習した。 ◇農家の減少、後継者問題があったな。 ③めあてを確認する。</p>	<p>(問いを生み出す手立て等)</p> <p>○社会科係に前時の学習について説明させ、互いに感想を出させる。 ◎「米づくり」に関する事前アンケート結果やGTの話を基に、米作りの努力や工夫、課題を整理する。 ◎小学校5年生の社会科学習(米づくり)での既習事項を確認する。</p>
【めあて】単元のあらましをつかみ、学習課題を確かめる。			
展開	26分	<p>2 単元の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【学習課題】 七城米が私たちの自慢であり続けるために私たちができることは何か？</p> </div> <p>①米の生産を高める工夫、米づくり農家のかかえる課題と新しい取組を整理する。 ◇七城米をブランド米にした。 ◇生産量や消費量が減っているな。 ②探求する課題をグループで設定する。 ◇農家の減少について考えたいな。 ◇米の消費量の減少について考えたいな。 ◇水などの環境について考えたいな。 ◇富田甚平について調べてみたいな。 ◇新しい米づくりの方法を調べてみたいな。</p> <p>3 探求課題に対する予想と課題追究のための学習計画を立てる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【期待される学びの姿】 七城町の米づくりやそれを取り巻く自然・社会的環境の変化に興味・関心を高め、探求課題の追究のために、情報を集め、学習計画を立てている。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【まとめ】・七城町の米がいつまでも私たちの「自慢」「誇り」であり続けるために、 ()・()・・・について考える。 ・将来の米づくりについての構想を地域の人たちに聞いてもらう。</p> </div>	<p>(課題解決に向けた見通しを持つ手立て等)</p> <p>◎JJSC 小学校で扱った資料を提示し、米づくりの現状や課題を考えさせる。 (個に応じた支援)</p> <p>○GTの講話や教科書・資料集から読み取ったことを教師と対話しながら思考ツールに整理する。 ◎JJPQ 学習課題の理解状況を把握し、支援する。 (課題解決に粘り強く取り組もうとするための手立て等)</p> <p>◎JJSC で課題を焦点化できるようにする。 ○思考の過程に沿ったワークシートで「何を考えるのか」「何を書くのか」を明確にすることで、学習への興味・関心や課題追究への意欲を高める。 (言語活動の設定及び設定の意図)</p> <p>○設定した探求課題の予想を、生徒がその理由を自分の言葉で説明したり、対話したりすることで、理解がより深め、新たな学びにつながるよう支援する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【具体的評価規準】(態度) 年表・地図・写真・グラフ・図などの資料から、七城の米づくりのあらましをつかみ、米づくりに対する興味・関心を高め、学習計画を立てようとしている。(方法：ワークシート・観察)</p> <p>【到達していない生徒への手立て】 ○教師と小学校教科書を参考にしながら、課題と関連する事項への気づきや疑問を引き出すことで支援す</p> </div>
終末	12分	<p>3 本時の学習をふり返る。</p> <p>①本時の学習をふりかえり、発表する。 ◇このことをもっと知りたいな。 ◇次の時間が楽しみだな。 ②教師のふりかえりを聴く。</p>	<p>◎JJPQ 単元の学習課題と学習の見通しを確認する。</p> <p>○本時で習得した知識、気づいたこと、新たな疑問、次時に調べたいことを書かせる。 ○他者と「ふり返り」を交流し、次時からの学習への意欲を高める。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>○本時で働かせた力・鍛えた力を確認する。</p> </div>

JJSC ジャストジャンプ8シナリオカード

JJPQ ジャストジャンプ8プリアンケート

<p>今日の流れ</p> <p>1 復</p> <p>2 音</p> <p>3 ゆ</p> <p>4 課</p> <p>5 ま</p> <p>6</p>	<p>※小学校での 既習事項</p>	<p>第4章 地域のあり方 p.72～81</p> <p>※前時 (GTの話) の ふりかえり</p>	<p>㊦ 単元のあらましをつかみ、 学習課題を確認する。</p> <p>㊧ 七城米が私たちの自慢であり続けるために私たちができることは何か？</p> <p>㊨</p>
--	------------------------	---	---

【ICT活用計画】

- ① デジタル教科書を使用し、教科書掲載の資料（写真・絵図・史料等）を提示する。
- ② 動画により、授業導入やまとめのイメージ形成を行う。
- ③ ジャストジャンプ（プリアンケート、シナリオカード、デジタルノート）を思考や発表、情報蓄積の場で使用する。

【授業実践の成果と課題】

- 1 授業の様子
 - 七城米のおいしさを知り、誇りを持っている生徒たちは、米づくりの学習への関心・意欲はすぐにうかがえた。
 - 米作りの工夫や農業の課題について、小学校5年生社会科で学習したことをよく発言していた。
- 2 成果
 - 様々な資料を準備し、提示したことで、米作りを生産者、消費者、地域社会、環境、食育、産業など、多面的・多角的な見方ができた。
 - 生徒から素直な疑問や知りたい・調べてみたい事項がたくさん出た。

- ・「おいしさ」とは何が違うのか
 - ・農家の方々の平均年齢は
 - ・七城町の人口減少と米作りの関係は
 - ・農家の人手不足はどの程度深刻か
 - ・米の種類(品種)によって作り方はちがうのか
 - ・米作りに大切な水は無くならないのか(大手半導体工場・関係工場の影響)
 - ・温暖化の影響はあるのか
 - ・米作りにはどのような苦労があるのか
 - ・米作をつくる若者はいるのか
 - ・他地域の米と七城米と何がちがうのか
 - ・農家の一番の心配事は何か
 - JAの営農課の方が、いろいろな情報を提供してくださる。
- 2 課題
 - 「農家の知恵・工夫、努力」について、学校の教科書で学んだ知識、インターネット等で調べた知識は持っているが、生徒には、おいしいお米食べるのは「普通」「あたり前」となんとなく思っている。米作りに関わる問題は、他人事であり、切実感が薄い。米作りの実態、それにかかわる様々な問題を自分ごと化することが課題である。また、農業のイメージも昔のままで、最先端の技術や昨今の農業運営について知らない生徒が多い。
- 3 対策
 - 地域の米農家やJA、行政の方々などと子どもたちを出合わせ、米作りについて対話を行う。
 - 米作りを多面的・多角的に学ぶために、総合的な学習の時間と連携した学びを中心に、全教科・領域で持続可能な社会づくりのために考え行動するカリキュラムを考えていく。
 - 先日、菊池市で地域学校協働活動のフォーラムがあり、生徒会が「ホテルの舞う里山ビオトープづくりプロジェクト」を発表した。この取組から「学びのストーリー」を生み出し、その一環として学校の伝統行事である米作りを行う

